

日本の トップランナー企業

防水材市場でさらなる飛躍を目指す

大関化学工業はポリマーセメント系塗膜防水材の市場では40%ほどの市場シェアを持つ。同社の主力商品「パラテックス」が開発されたのが1955年。実に半世紀以上もの間改良を重ね、地道に市場を切り開いてきた結果のなせる業だ。世界的に自然災害が多発するようになった昨今、同社の活躍の場も広がりをみせようとしている。津田庄平氏が社長に就任してちょうど10年。就任以来、力を入れてきた新製品もようやく成果を見せ始めている。今後は寒冷地の環境下でも対応できる製品開発を急ぎ、東南アジアだけでなく、欧米も含めた海外市場展開にも力を注ぐ。



津田 庄平 社長

れる。

万一コンクリートとともに防水層が破断した場合でも、その防水層の破断部が水分を吸収し体積を膨張させ、さらに特殊添加成分が亀裂断面間での相互作用を促進し化合物を形成することで、微細な破断なら徐々に自閉する特徴を持つ。

庄平社長は強調する。同社では品質に加え、自然災害などで建物自体に損傷が加わった場合の迅速な漏水対策にも力を入れている。これら両輪となって、「パラテックス」の売り上げは今も同社の売

種水槽、上下水道施設など街のあらゆる箇所の新築や改修に使われてきた。その使われる現場や時代の要請に応じて、工法に磨きをかけてながら改良を重ねてきた。

類似品も多く出回るが、「品質にはこだわっている」と津田に寄与している。

「パラテックスAP」は環境への負荷を最小限に抑えた通気緩衝工法だ。改質アスファルト通気緩衝シートを下

大関化学工業

水防錆・遮熱工法。鉛クロムなどの有害な金属顔料を含まない環境負荷を極力抑えた材料で、特殊変性エポキシと防錆顔料の結合効果により優れた防錆効果と幅広い素地及び旧塗膜との接着性を実現する。また、従来の塗料に比べて日射時の金属屋根裏面温度を15度C以上低下させる。これによってエネルギーコストの削減に貢献するとともに、防水層の温熱によるダメージを軽減し、長期に渡り防水性能を維持する。

海外展開にも注力

同社が東南アジア市場の成長性をにらんでタイに拠点を設けたのが2014年。市場の視察を行ってからは実に9年の歳月が経つ。津田社長が「まだまだこれから」と話すように売上高に占める割合は現在1割にも満たないが、タイだけでなくベトナム、ミャンマー、インドネシアなどへ市場開拓を進め、これからの10年間で2〜3割までに増やしていきたい考えだ。同時に欧米

市場にも乗り出し、海外市場全体で売上高の3〜4割まで持っていくのが目標だ。

そのためには商品自体を寒冷地の環境下にも対応できるようにしなければならない。この懸念は拭き、さらなる飛躍を目指す。ここ数年は国内

台風の影響に立ち向かう

昨年は台風19号をはじめとする大型台風が日本を襲い、日本の各地に甚大な被害を及ぼした。ビルの屋上などに施工される防水材に

についても、ものよつがは風に乗って飛ぶ。その被害も相当数あつた。そんな中、同社の商品「パラテックス」は水性エマルジョンと無機粉体を原

じめ、地下構造物など使用しても水質汚染など、環境に影響を及ぼす心配もない。そして、その塗膜の水和反応は大型放射光施設「Springer」におけるX線解析でも

実証されている。塗膜防水で複雑な形状の下地に対して容易にシー

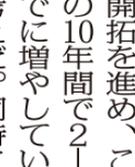
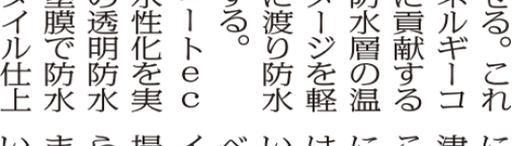
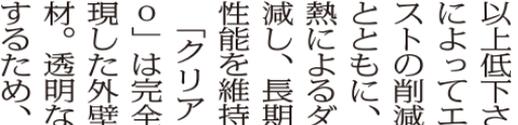
バルコニー、外階段や建物内の厨房、浴室などの水回り、地下共同溝、地下トンネル、各

「パラテックス」はこれまでビルの屋上、外階段や建物内の厨房、浴室などの水回り、地下共同溝、地下トンネル、各

品質重視の 新製品・工法の開発

「パラテックスAP」は環境への負荷を最小限に抑えた通気緩衝工法だ。改質アスファルト通気緩衝シートを下

「パラテックスAP」は環境への負荷を最小限に抑えた通気緩衝工法だ。改質アスファルト通気緩衝シートを下



環境を守り、信頼に応える
大関化学工業株式会社

PARATEX <https://www.ozeki-chemical.co.jp>
〒658-0041 神戸市東灘区住吉南町1丁目1-15 TEL:078-841-1141